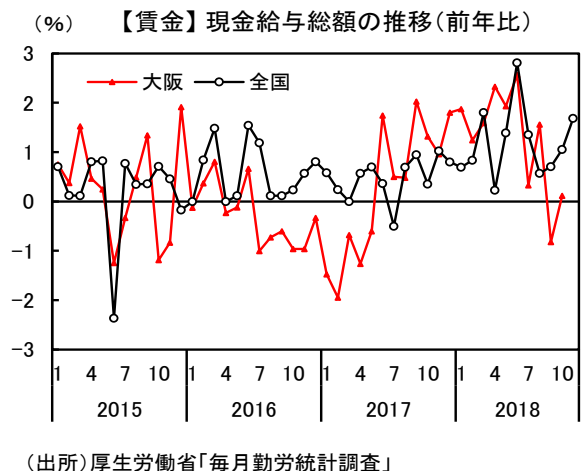
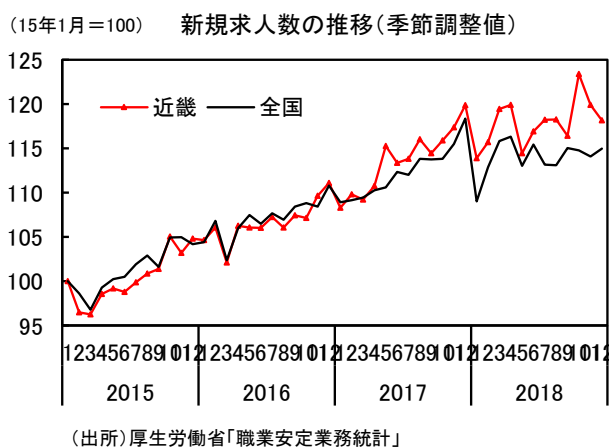
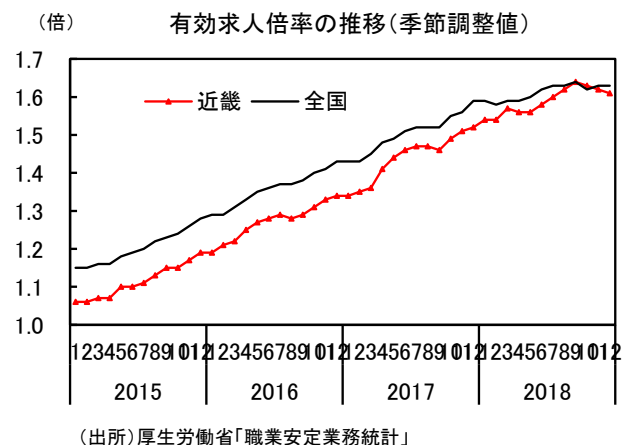
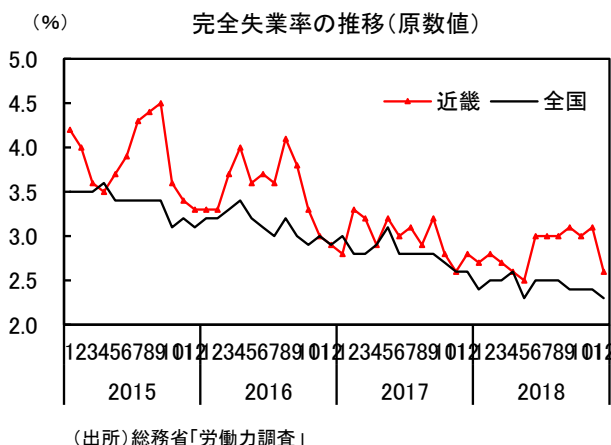


関西の景気トピックス【雇用関連（18年12月）】

- 18年12月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は2.6%（原数値）と、前年比で0.2ポイント低下している。低下は3か月ぶり。変化の内訳は、就業者数が前年比で23万人増え、失業者が2万人減少、非労働力人口は23万人減少した。就業者数は長期的な増加傾向が続いている。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、18年12月は1.61倍（季節調整値）と前月比で0.01ポイント低下した。低下は3か月連続。ただし、1.61倍という水準は、1974年5月以来（1.63倍）の極めて高いものである。
- 近畿の失業率は低い水準が続き、有効求人倍率も1.6倍台の高水準にあるなど、雇用情勢は概ね好調といえる。ただし、賃金では定期給与の伸び率の低下がみられるほか、求人倍率の伸びも鈍化がみられるなど、必ずしも楽観はできない。



本件照会先:大阪本社 荒木秀之
 TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp